



温故知新



内部から起こる情報漏洩を防ごう！

建設業では図面データや現場写真、さらに工程表や社員の個人情報など、膨大なデータを扱っています。これらの情報が外部に漏れれば企業の信用低下や損害賠償を請求されるなど様々なリスクにさらされます。情報セキュリティのリスクは不正アクセス、ウイルス感染といった外部からの侵入が多いと思われがちですが、「一般社団法人日本建設業連合会」の調査資料「建設業界の情報セキュリティ5大脅威」にて実際に発生した事故をベースに順位付けされたランキングでは、ヒューマンエラーが上位を占めており

“

本人の認識不足やルール違反と共に会社側の教育・指導不足があげられる。
ひとたび事故が発生すると、施主の信用失墜や損害賠償などに繋がり、
経営上の大きなリスクとなる。

”

と記述されています。ここでは外部からの攻撃以前にさらに身近でありながら防ぐことが難しい「内部から起こる情報漏洩」とその対策方法をご紹介しますと思います。

	原因	対策方法
①	パソコン等情報機器の紛失・盗難	パソコンを不用意に持ち歩かない、酒席にはパソコンを持ち込まないなど基本的な対策はもちろんですが「重要情報を個人で持ち歩かずに本拠地に集約し、外部からアクセスする方法」が考えられます。手持ちのデバイスにはデータを残さずに会社の情報にリモートアクセスすることで万が一手持ちのデバイスを紛失、盗難されたとしても情報漏洩の危険はなくなります。
②	SNSなどの投稿による現場写真の漏洩	この問題は絶対に会社側の指導が必要になります。特に若い作業員などには徹底した注意喚起が必要になります。業務中は社内限定のチャットを使うことに限定し、その他のSNSにはアクセスしないことを促すなどの対策をする必要があります。
③	図面などの重要情報の紛失・盗難による情報漏洩	会社内で図面情報を管理し、現場から遠隔でアクセスする形式をとればノートパソコンやタブレットで図面を閲覧することができます。この方式であれば手持ちのデバイスのスペックに左右されずにCADなどの重いデータを編集することも可能になります。
④	メールの誤送信による図面データ等の漏洩	社外秘をやり取りするときには社員だけが使用できるツールで情報をやり取りするべきです。「社内限定の情報共有ツール」を導入することで対策をすることができます。文字情報だけでなく現場写真のやり取りも社内チャットで行えば宛先を間違えて社外に情報を漏らしてしまった…と言う事は起こりえません。
⑤	不正メール、添付ファイルの開封によるウイルス感染	現場から会社内の情報にリモートアクセスを許可する場合、メールの送受信ができる権限を管理者のみに限定し、その他の社員には社内限定の情報共有ツールでのやり取りに限定すれば、不用意に不審なメールを開いてウイルス感染する事例は起こりづらくなるはずです。

【今号の主な内容】

- P① 情報漏洩
- P② 全国安全週間
- P③ エイジフレンドリー・リモートワーク
- P④ ことわざ・お知らせ



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
TEL：03-3572-1866

ことわざ・格言にならう安全衛生訓

● 危ない橋を渡る ●

・「危ない事は怪我のうち」です

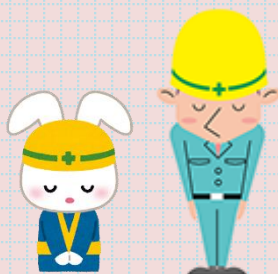
「危ない橋を渡る」とは、危険なことをあえてするたとえで、とくに、法律に触れるか触れないかすれすれのやり方で物事を為す場合に用いられます。

厳しい世の中で生きていくためには、「危ない所に登らねば熟柿は食べぬ」のたとえのように、多少の危険を犯さなければ目的を果たせないこともあるようです。

でも、誰だって無鉄砲に危ない橋を渡っているのではなく、それぞれに対策を考え、成算を考えてのうえです。しかし、人はそれぞれに危険に対する認識の度合が異なり、大多数に人が危険だと思うのに、当人はそれほど危険とは思っていない場合があるので困ります。

「KYK(危険予知活動)」や「リスクアセスメント」は、職場にある危険性や有害性を評価し、対策を実施していく手段ですが、人によって危険に対する評価が異なり、本人は安全だと思っても、はた目は危険な橋を渡っている場合があります。「危ない事は怪我のうち」です。くれぐれも規則やルール違反などの“危ない橋”を渡らないようにしましょう。

【 職長会のお知らせ 】



- ★日時 2020年7月20日(月)
- ★時間 18時00分～
- ★会場 銀座ユニーク 3階

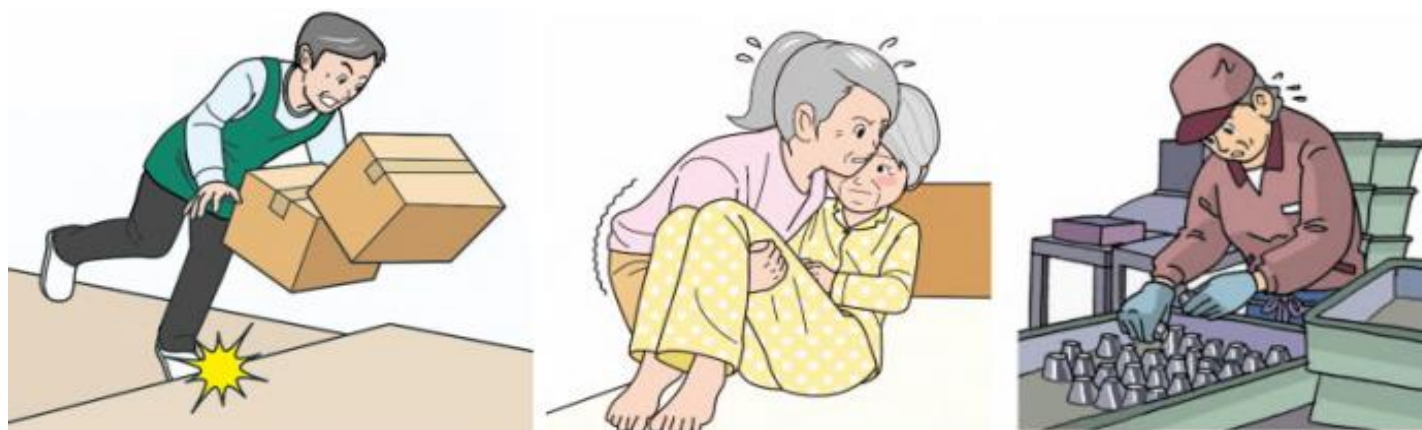


※7月4日の安全大会が中止になった為、今年度の安全表彰は職長会にて行います。
表彰者に選ばれた方はお手数ですが7月20日の職長会にご参加いただきますようお願い致します。
表彰対象者は後日現場担当者よりお知らせいたします。

エイジフレンドリーガイドライン

～高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン～

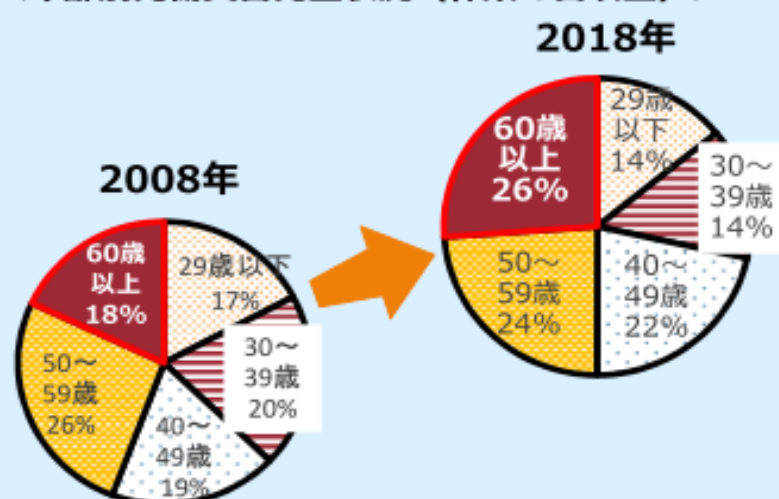
働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう！



働く高齢者が増えています。60歳以上の雇用者数は過去10年間で1.5倍に増加。特に商業や保健衛生業をはじめとする第三次産業で増加しています。

こうした中、労働災害による死傷者数では60歳以上の労働者が占める割合は26%（2018年）で増加傾向にあります。労働災害発生率は、若年層に比べ高齢層で相対的に高くなり、中でも、転倒災害、墜落・転落災害の発生率が若年層に比べ高く、女性で顕著です。

<年齢別死傷災害発生状況（休業4日以上）>



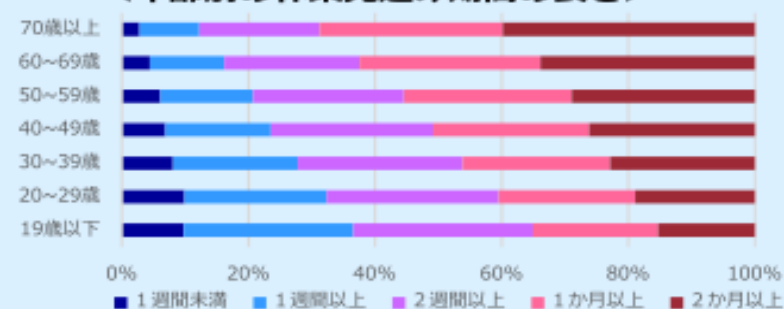
高齢者は身体機能が低下すること等により、若年層に比べ労働災害の発生率が高く、休業も長期化しやすいことが分かっています。

体力に自信がない人や仕事に慣れていない人を含めすべての働く人の労働災害防止を図るためにも、職場環境改善の取組が重要です。

<年齢別・男女別の労働災害発生率 2018年>



<年齢別の休業見込み期間の長さ>



出典：労働力調査、労働者死傷病報告

「リモートワーク」を活用しましょう！

コロナウイルスの感染症対策として、リモートワークの活用を紹介します！「新しい生活様式」として、三密を避けながらの会議等が必要となってきます。ZOOMやLINEなど様々なアプリを使用して、1つの場所に集まらなくても現場の状況や工期などの会議ができます！（弊社も週に1度ZOOM会議を行っております。）

ぜひ、この機会に導入してみたいかがでしょうか？

仕事だけではなく今、流行しているリモート飲み会もできるようになります！

様々な感染症対策でこの状況を乗り越えましょう！



令和2年度

全国安全週間実施要領

令和2年度 スローガン

エイジフレンドリー職場へ！
みんなで改善 リスクの低減

実施期間

準備週間:6月1日～6月30日
本 週 間:7月1日～7月7日

会長メッセージ

令和 2年度の全国安全週間を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。

全国安全週間は昭和 3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、一度も中断することなく続けられ今年で 93回目を迎えます。

一方、本年は新型コロナウイルスの感染が全世界に蔓延し、我が国においても多大な影響を及ぼしており、全国安全週間期間中も「3つの密」を避けるなど感染予防対策の徹底が強く求められています。会員の皆様には、感染予防に必要な措置を確実に講じていただきますようお願いいたします。

さて、建設業における労働災害は、会員をはじめ関係者の皆様の御理解と御協力を得て、長期的に減少して参りました。平成 31年及び令和元年の建設業における労働災害による死亡者数は過去最少となる 269人となり、休業4日以上之死傷者数は、15,183人と前年を下回りました。しかしながら、墜落・転落災害による死亡者数は、依然として全体の約4割を占めており、年齢階層別にみた死傷者数については、近年 60歳以上の労働者の占める割合が最も多い傾向にあります。

建設業では、従前からの課題である技術者・技能労働者の不足、建設労働者の高齢化の進展、受け入れ拡大の進む外国人労働者への対応、長時間労働やメンタル不調による健康リスクの増大への取組が求められており、さらに、例年の猛暑により増加傾向にある熱中症や、激甚化する豪雨や台風などの自然災害に対応する中での労働災害防止への取組も求められています。

これらに対応するため、当協会では国際基準に対応した「ニューコスモス」及び「ニューコスモス」を中小規模事業場向けにアレンジした「コンパクトコスモス」の積極的な導入、建設現場におけるメンタルヘルス対策、建設業で最も多い墜落・転落災害の防止対策、職長・安全衛生責任者能力向上教育や外国人労働者などへの安全衛生教育の充実、さらに熱中症の防止に向けた取組などを進めることにしております。

建設業は、地震等の大規模災害からの復旧・復興、激甚化する自然災害などへの備え、国土強靱化に向けたインフラ整備など、安全・安心な暮らしのためにその重要な役割を果たさなければなりません。

このような状況を踏まえ、会員の皆様には令和2年度の全国安全週間の準備期間及び本週間において取り組むべき事項をまとめた本実施要領を参考に、経営トップの強力なリーダーシップの下、関係者が一丸となって現場での自主的な安全衛生管理活動をより一層推進し、安全な職場環境を形成されるようお願いいたします。

令和2年5月

建設業労働災害防止協会
会長 銭 高 一 善

